

大田市新不燃物処分場建設計画に関する要望書

住民の生活環境に大きな影響を及ぼすゴミ処分場建設計画に関して、候補地選定のプロセスに住民の意思が反映されていないこと、大田市が宅野での建設を前提とした説明に終始していること、に対して住民の不信感が高まっています。

平成 21 年 1 月 20 日には、地元住民への説明がないままに宅野が最終候補地となったことについて、「住民への十分な説明の期間と機会を設けること」「住民と全地権者の完全な同意が得られるまでこの計画を進めないこと」の 2 点を請願する地元住民らの署名が 501 人となり、その請願署名簿が大田市長に届けられました。

あらかじめ決定済みの事業方針・事業計画の一方向的な説得活動では、もはや住民の合意は得られません。よって、この問題に関して、宅野での建設計画をいったん中止し、住民や学識経験者をまじえた協働の意思決定プロセスを導入したうえで、ごみ問題全般に関する真剣な討議を重ねていくことが重要です。

議会におかれましては、住民の声を反映し、下記の事項を検討、実施していただくことを強く要望します。

記

- 1 住民の合意を得ずに、宅野地内での「測量調査、地質調査、生活環境影響評価調査、地権者説明等」を行わないこと。またこれらの予算計上を行わないこと
- 2 新不燃物処分場建設計画に関して、住民および学識経験をまじえた「ごみ問題検討委員会（仮称）」を発足させ、今後の対応を委ねること

平成 21 年 1 月 27 日

大田市議会議長 石原 安明 殿

宅野の自然と生活環境を守る会 代表 山上光俊

事務局 大田市仁摩町宅野 3 3 - 2 西尾 功

市議会全員協議会における執行部への懸念発言について

平成19年9月10日の市議会全員協議会において、数名の議員から新不燃物処理場建設に関する執行部の強引な進め方を懸念する発言がありました。議会でのこうした良識ある意見にもかかわらず、これを無視して一方的に住民に計画を押し付けようとした大田市長以下、執行部の責任は非常に重いと言わざるをえません。

以下、平成19年9月10日大田市議会全員協議会記録からの議員発言の抜粋です。

○（平成19年9月10日大田市議会全員協議会記録4ページ）18番（福田佳代子）－前略－
新しい最終処分場を造るに当っては住民の理解が得られないと事業が前に進んでいきません
－後略－

○（同5、6ページ）15番（塩谷裕志）－前略－ これではある程度最終候補地を決定し、それから基本構想を作る。それから地元地域合意形成という形で、私はちょっと順番が違うんじゃないかと思うんですが、－中略－ 最終候補地決定に当って、やはりその地域と協議を持つべきではないかと。何かこのスケジュールでは先にもう決定し、そして後住民合意を形成していくという、これはちょっと違うんじゃないかと－後略－

○（同6ページ）15番（塩谷裕志）－前略－ やはり最終候補地決定に当っては地域との協議を事前に持つべきではないのかということをお聞きしたいですけれども。今の答弁の中でその辺が明確でなかったような気がするんですが、何かそうした形でも取らなくては、逆に結論が先にいって、地元協議が後回しになるということやはりこういった施設ですので、スムーズに建設に向けてはなかなか事業の取り組みができないではないかと思っておりますので、その辺再度お聞きしたいと思います。

○（同8ページ）4番（松村信之）－前略－ その地域にまず最初に「いや実はこうなんだけど、この調査に入らせてもらいます」というような前提をするべきではないかと私は思うんです。その自治会に頭を下げていって、もしこういうような状態になると思いますというような話が伝わって、初めてその業務委託された人がその地に訪れるというような方策をとっていただければと思うわけでございます。

○（同11ページ）21番（林 仁）－前略－ 簡単に机の上で検討して、20年度初旬までに最終処分場を決定して、20年後半から地元説明としていますけれども、こういう処理施設というものは簡単に地域住民の同意を得るということはなかなかできませんよ。だからもうちょっと、あと半年、20年初旬というから何月かは私はわからんけれども、あと1年ならんでしょう。半年ちょっとということでしょう。それまで最終処分場決めるということはちょっと経験上、抵抗があるんじゃないですか。

○（同12ページ）23番（清水 勝）－前略－ できるだけ地域の皆さんに迷惑をかけないような施設にする中で、そこら辺り合意形成を早くもっていくような取り組みが大事ではないかと思うんですよ。－後略－

以上